



がん放射線療法看護認定看護師

きたむら たけし まつしょう みきこ
喜多村 健 (呼吸器内科病棟) **松莊 美樹子** (外来・放射線治療室)

放射線療法は、手術療法、薬物療法と並ぶ、がんの3大治療のひとつです。体への負担が少なく、高齢の方や、合併症のある患者様にも広く適応できることが特徴です。高齢化社会に伴い、がん治療法として身体にやさしい放射線治療の需要は高まっています。ただし、放射線治療にも副作用がないわけではありません。副作用の症状を上手にコントロールし、計画された治療を最後まで受けていただくことが治療効果へとつながります。



《部位別の主な副作用と対処法》

一般的なものを記載しています。参考にしてください。

頭部：頭痛・吐き気（脳の一時的なむくみによるもの）・脱毛
・ステロイド薬、吐き気止めの投与
・帽子、ウィッグの着用

口腔・頭頸部：粘膜炎・味覚変化
唾液減少
・刺激物の飲食を避ける、鎮痛薬
・禁酒・禁煙、口腔ケア

肺・縦隔：食道炎・放射線肺炎
・刺激物の飲食を避ける
・肺炎の早期発見・受診

乳房・胸壁：放射線皮膚炎
・保湿、保清などの肌のケア
・擦る、搔く、圧迫などの刺激を避ける

腹部（胃や腸）：吐き気・嘔吐・下痢
・消化の良い食事、胃薬、止瀉薬

骨盤部（前立腺・膀胱）：頻尿・排尿痛
・頻尿改善薬、鎮痛薬



近年、治療機器や治療技術が進歩し、がん周囲の正常組織への影響が減り、副作用や後遺症も少なくなってきました。



「がんの放射線治療と免疫力について」

放射線治療を受けた女優さんが新型コロナウイルス肺炎で亡くなられたニュースに、不安に思われた方もおられるかも知れません。日本放射線腫瘍学会からは「一般的な放射線治療では、からだの免疫力が大きく低下することは、ほとんどない」と発表しています。

一部、骨髄の働きが悪くなるような広い治療範囲や、抗がん剤を組み合わせる治療を行う場合は、その影響を否定できない場合もあります。当院の放射線治療センターでも、医師からの十分な説明と感染予防に努めながら、日々の治療を行っております。患者さんやご家族には、ご自身の治療法や体への影響を理解して、安心して治療を受けていただきたいと思います。不安や疑問なことはいつでもお尋ねください。

